

## ＜フィルムの映写と取扱いに関する主催者へのお願い＞

主催者及び映写技師の方は下記の注意事項をお読みいただくとともに、上映後に添付書類①～③(事故発生時は併せて添付書類④)の用紙に記入漏れがないかご確認いただけますようお願いいたします。

※近年、映写事故によるフィルムのダメージが目立ちます。貴重なフィルムを多くの方に鑑賞していただくために、映写技師の方にはよりいっそうフィルムの取扱いに注意していただき、また主催者の方におかれましても映写技師の方と情報共有をしていただきながら、**未然に防げるトラブルは回避していただけますようご協力お願い申し上げます。**

### ●添付書類について

以下の①～④の書類は、映写技師に記入いただくものです。添付書類①のみ、映写業者が決定した段階で映写技師の方へお渡しください。

①以外の書類は巡回プリントに同封してあります。①～④はプリントと一緒に返送してください。

- ①フィルム取扱注意事項 ……事前に映写技師へ渡し、フィルムに手を触れる前に確認・署名していただくようお願いします。
- ②フィルム巡回先リスト ……巡回プリントに同封。上映日に記入してください。
- ③上映報告書／④事故報告書 ……巡回プリントに同封。上映日に記入してください。③④は両面印刷になっています。

### ●使用する映写機の状態を確認してください。

#### ①メンテナンス状況

定期的(年一度を目安)にメンテナンスされた映写機を使用してください。使用する映写機が常設のものであれば、施設の担当者にご確認いただき、映写技師と情報共有してください。

#### ②作品に適した映写機材、調整

下記作品に該当する場合、使用する映写機装置の確認をしてください。

Eプロ『生きる』  
Pプロ『羅生門』

小コア巻きで缶に収めている巻があります。送り出し側のトルクの調整ができない場合は、フィルムを傷める恐れがありますので、上映時は大コアに巻きなおすか、リールに入れ替えるようにしてください。  
**※TOKIWA、SHINKYOの移動映写機などで2000ft巻きまでが最大の場合、送り出し、トルクなどが映写上問題がないことを確認できている時には、2000ft缶に入っている『生きる』は小コアのままの上映でも可とします。**

Hプロ『豚と軍艦』  
Xプロ『お早よう』

プリントがトリアセート(TAC)ベースです。切れやすいため、映写機の送り出しや巻き取りのテンション(ブレーキ)に注意してください。  
**小さなコアは負荷がかかり切断しやすいので使用しないでください。**

Kプロ『ニンゲン合格』(DOL-SR)  
Lプロ『Shall we ダンス?』『がんばっていきまっしょい』(DOL-SR) 『キツツキと雨』『死に花』(DOL-D)  
Mプロ『愛を乞うひと』『GO』『ゆれる』(DOL-SR)  
Pプロ『羅生門』(DOL-D)  
Xプロ『風の又三郎 ガラスのmant』(DOL-ST)  
Yプロ『銀河鉄道の夜』(DOL-ST)

ドルビーサウンドのプリントで、DOL-ST(ドルビーステレオ/ドルビーAタイプ)、DOL-SR(ドルビーSR)、DOL-D(ドルビーデジタル/SRD)の3種類あります。DOL-Dは、DOL-SRでも再生可能です。  
**\*『キツツキと雨』のSRはシアタイトラック(レッドLEDランプで再生)。**



#### アナログステレオ (DOL-ST)

複数の音がミックスされているシーンで2本のモジュレーションが違う波形の箇所があれば、ステレオと判断できる。



#### デジタル (SRD)

バーフォーレーションの間に、5.1チャンネルのデジタル音声信号を焼きつけている。

### ●トラブルのない上映を遂行するためには、映写機とフィルムの事前チェックが重要です。

#### ①フィルムの状態

巡回上映のため、フィルムの状態が悪い場合もあります。早めに確認をし、必要な補修を行えるよう予定をたててください。

#### ②映写機と音響機器

今プログラム作品においては、調整された映写機での映写、音の再生には問題ないことを確認しています。

ランプの光量や、アンプ・スピーカーも含めた音響機器の不具合も上映に影響しますので、映写技師や施設担当者へご確認ください。**上映会場で事前に上映チェックを行うことを推奨します。**

### ●上映後の確認をお願いします。

上映後、映写技師にフィルムの走行など問題がなかったかどうか、確認してください。事故があった場合、早急に本件委託先の(株)オーエムシーへご報告ください。**また映写技師が記入した「④事故報告書」を早急に国立映画アーカイブ相模原分館へ、FAXでお送りください。**

### ＜映写事故があった場合の連絡経路＞



※事故の状況を確認するために、国立映画アーカイブから映写技師へ直接連絡する場合があります

#### ◆国立映画アーカイブ相模原分館

電話:042-758-0128 FAX:042-757-4449(火～金曜日) 担当:小川・猪股

#### ◆株式会社オーエムシー(令和5年度委託業者)※令和6年度については未定

電話:03-6810-1071(月～金曜日) 担当:朱雀・内野

<主催者の方へ>フィルムを編集・試写する前に映写技師に確認、署名いただけるようお願いいたします。

## ①「フィルム取扱注意事項」 ◆作業前に必ずご確認・ご署名ください◆

会場名: \_\_\_\_\_

映写技師の方は、下記フィルム取扱注意事項をお読みのうえ左欄のチェックボックスにチェックをし、最後に署名をお願いいたします。

チェック

1. 下記に該当する上映作品があるか確認し、必要な準備を行ってください。

Eプロ『生きる』  
Pプロ『羅生門』

小コア巻きで缶に収めている巻があります。送り出し側のトルクの調整ができない場合は、フィルムを傷める恐れがありますので、上映時は大コアに巻きなおすか、リールに入れ替えるようにしてください。  
※TOKIWA、SHINKYOの移動映写機などで2000ft巻きまでが最大の場合、送り出し、トルクなどが映写上問題がないことを確認できている時には、2000ft缶に入っている『生きる』は小コアのままの上映でも可とします。

Hプロ『豚と軍艦』  
Xプロ『お早よう』

プリントがトリアセート(TAC)ベースです。切れやすいため、映写機の送り出しや巻き取りのテンション(ブレーキ)に注意してください。小さなコアは負荷がかかり切断しやすいので使用しないでください。

Kプロ『ニンゲン合格』(DOL-SR)  
Lプロ『Shall we ダンス?』『がんばっていきまっしょい』  
(DOL-SR)『キツツキと雨』『死に花』(DOL-D)  
Mプロ『愛をうとひと』『GO』『ゆるる』(DOL-SR)  
Pプロ『羅生門』(DOL-D)  
Xプロ『風の又三郎 ガラスのモント』(DOL-ST)  
Yプロ『銀河鉄道の夜』(DOL-ST)

ドルビーサウンドのプリントで、DOL-ST(ドルビーステレオ/ドルビーAタイプ)、DOL-SR(ドルビーSR)、DOL-D(ドルビーデジタル/SRD)の3種類あります。DOL-Dは、DOL-SRでも再生可能です。\*『キツツキと雨』のSRはシアンドイトラック(レッドLEDランプで再生)。



アナログステレオ(DOL-ST)

複数の音がミックスされているシーンで2本のモジュレーションが違う波形の箇所があれば、ステレオと判断できる。



デジタル(SRD)

パーフォレーションの間に、5.1チャンネルのデジタル音声信号を焼きつけている。

### 2. 上映前プリントの確認

チェック

プリントの状態(スプライシング部など)は、上映前に確認してください。巡回上映のため、フレームがずれていたり、テープの処理が悪い可能性があります。

新たなワキシング(油)は塗布しないでください。今プログラムのプリントには必要ありません。

1リールにつきなく際はテープを剥がしてつないでください。新たなスプライスを入れないでください。

画面を1コマも落とさないでください。止むを得ずカットしたコマは、事故報告書(上映報告書裏)に理由を記載し、カットしたコマを貼り付けて返却してください。

フィルム表面には傷や汚れをつけないように十分注意をしてください。やむを得ず印をつける際は、穴あけパンチや鉄筆は使用せず、ベース面にダーマトグラフで記入してください。

#### <フィルムに使用できるもの>

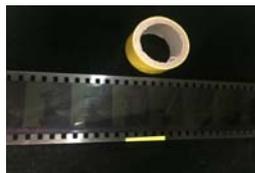
- 仮止め用紙テープ(粘着力の弱いテープ)
- ダーマトグラフ(ベース面のみ可)
- △養生テープ(なるべく使用しない)
- △ビニールテープ(なるべく使用しない)

#### <フィルムに使用してはいけないもの>

- ×ポスターカラー(白マーカーなど)
- ×鉄筆(フィルム面を削る)
- ×穴あけパンチ
- ×セロテープ



ダーマトグラフ。ベース面のみ使用可。



マークが見づらいとき、ダーマトグラフの他に、黄色テープを利用する方法もあります。

### 3. 映写機および周辺機材の確認

チェック

定期的(年一度を目安)にメンテナンスされた映写機を使用してください。リワインダー、ブラッター等周辺機材も点検が必要です。使用映写機および周辺機材の前回メンテナンス年月を記入してください。

メンテナンス実施年月: \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月

Aチェーン(映写機サウンド部~プリアンプ)の調整がされているか確認してください。正常に読み取れないとノイズが起きたり、音量に影響があります。

使用するプリアンプ~スピーカー(Bチェーン)の状態を確認してください。不具合があるとノイズが起きたり、音量に影響があります。

油漏れを起こしている映写機は、フィルムに付着しないよう布を敷く、または映写直前に油を拭き取ってください。

### 4. 上映後の作業

チェック

編集したフィルムを元に戻す際は、画面をカットしないでください。銀テープを使用した際も画面を傷つけることなく、きれいに剥がしてください。また、フィルムをコアに巻くときに、巻末をビニールテープなどで止めているケースがまれに見受けられますが、次の会場での映写機の破損など、大きな事故につながる可能性があります。テープ止めは絶対にしないでください。

上映前に①フィルム取扱注意事項(当用紙)にチェック及び署名をお願いします。上映後は缶に同封している②巡回先リスト、③上映報告書の記入・署名を行ってください。映写トラブルがあった場合、早急に主催者へ報告し、FAXにて④事故報告書(③上映報告書裏面)を国立映画アーカイブへ送ってください。

### 5. 上記確認、チェック後に署名をお願いします。(必須)

年 月 日

所属会社・団体名: \_\_\_\_\_

映写技師名: \_\_\_\_\_

不明な点がございましたら、下記へご連絡ください。

◆国立映画アーカイブ相模原分館

電話: 042-758-0128 FAX: 042-757-4449(火~金曜日) 担当: 小川・猪股

◆株式会社オーエムシー(令和5年度委託業者) ※令和6年度については未定

電話: 03-6810-1071(月~金曜日) 担当: 朱雀・内野

ご記入後、フィルムコンテナ同封の用紙②③と一緒にご返送ください。



< 映写技師の方へ > 必ずご記入ください

③「上映報告書」

プログラム【0】

赤穂浪士

作品名:

[映写方法]

●1リール映写: 有 ・ 無 ※有の場合、上映後にリーダーを正確に接続してください。  
(編集) また、新たに画面をカットしないようくれぐれもご注意ください。

[全体の印象] 気づいた点をお知らせください

[画] 傷、汚れ、コマ落ちなど	[音] ノイズなど
-----------------	-----------

見本

[フィルムの状態・走行]

第1巻	第7巻
第2巻	第8巻
第3巻	第9巻
第4巻	第10巻
第5巻	第11巻
第6巻	第12巻

※この用紙はフィルムコンテナに同封しています。  
映写技師様にご記入いただくようお願いください。

[備考]

※フィルムの状態が悪い箇所、状態などお知らせください。フィルムの切断や傷が入ってしまった場合は裏面の「事故報告書」に状況を記入してください。また切断したフィルムは裏面の事故報告書に貼付して返却してください。

[映写環境]

映写機: 常設 ・ 仮設 ※どちらかに○をつけてください

映写機メーカー名/型番: ランプW数:

前回メンテナンス日: 年 月

サウンドリーダー: エキサイターランプ ・ LED (フォワードスキャン式 ・ リバーススキャン式)  
※どちらかに○をつけてください

サウンドプリアンプ: CP50・CP55・CP65・CP500・CP650・その他プリアンプ( )  
(プロセッサー) ※○をつけてください

上映日時: 年 月 日 時 開始  
年 月 日 時 開始

会場名:

映写技師名: 所属:

●上映後は必ず巻き戻し、巻頭をテープで留め、袋に入れて所定の缶に戻してください。

# ④「事故報告書」

プログラム【0】

作品名:

赤穂浪士

●映写技師連絡先

\*電話:

●損傷箇所

\*巻数:

\*箇所:

(例)前半

●フィルムの状態

●事故の原因 ※なるべく具体的に

# 見本

※この用紙はフィルムコンテナに同封しています。  
映写技師様にご記入いただくようお願いください。

●今後の対策 ※なるべく具体的に

●事故の状況を図や写真で詳しく説明してください。スペースが足りない場合は別紙でも構いません。  
切断したフィルムは空いているスペースに貼ってください。

<映写事故があった場合の連絡経路>



※主催者への報告を必ず行ってください。

※事故の状況を確認するために、国立映画アーカイブから映写技師へ直接連絡する場合があります。

◆国立映画アーカイブ相模原分館

電話:042-758-0128 FAX:042-757-4449(火～金曜日) 担当:小川・猪股

◆株式会社オーエムシー(令和5年度委託業者)※令和6年度については未定

電話:03-6810-1071(月～金曜日) 担当:朱雀・内野